

# 野毛山動物園「なかよし広場」でのハツカネズミ展示の工夫

(公財) 横浜市緑の協会 動物園部 野毛山動物園 ○齋藤 愛子  
藤岡 隆二

野毛山動物園のなかよし広場は、動物園の向かいにある野毛山公園にあった小動物と触れ合える「動物広場」を移設する形で2002年11月に園内にリニューアルオープンしました。ハツカネズミはオープン当初より展示していましたが、その展示方法は13年間の間に、利用者とスタッフがよりよく観察、管理できるように工夫し改善していきました。その工夫について紹介します。

## ●なかよし広場について

なかよし広場は右図のようなレイアウトでとなっていてハツカネズミの他に、モルモット・ラット・ニワトリ・アオダイショウがいます。来園者のほとんどが利用する人気のコーナーとなっています。

下のタイムスケジュールで運営していて、ふれあいの動物は2時間で交代しています。

※30名以上のご利用は、予約が必要です。(平日)		ご利用時間					
		9:45	11:45	12:15	14:15	14:45	16:15
平日		ふれあい	動物交代 お掃除	ふれあい	動物交代 お掃除	ふれあい	
土日・祝日 (入替無料)		10:00	12:00	13:30	15:30		
		ふれあい (20分交替)	動物交代 お掃除	ふれあい (20分交替)			



## ●ハツカネズミの展示台の変化

なかよし広場がオープンしたころは深さ45cmほどの箱でハツカネズミを展示し、そこから利用者が自由にハツカネズミを取り出し触れ合っていました。この箱では、ハツカネズミは逃げませんが、利用者が少し取りにくいという問題点がありました。そこで発想の転換をし、脚の高い台への変更を行いました。ネズミが飛び降りようとしない高さ、子供の触りやすい高さ、広さは子供がどこからでも手の届きやすい距離などを考えて台の高さや大きさを決めて今の展示台が出来てきました。

その結果、子供だけでなく大人も立った状態でハツカネズミが取りやすく、小さなお子さんもハツカネズミと目が合うことで、興味をもって近づいていく姿がよく見られています。

## ●ハツカネズミの移動

動物の交代・掃除の時間にハツカネズミは利用者の頭上に張り巡らされたロープを渡って休憩場所に帰ります。初めは、台の上のハツカネズミをスタッフが1匹ずつ手でロープへと上げていました。1回に100匹以上展示しているハツカネズミを1匹ずつロープへ移動するのは手間のかかる作業です。そこで考え付かれた工夫が棒を立てるという非常にシンプルなものです。

この単純な工夫は、スタッフの労力の軽減だけでなく、利用者が楽しみ、そしてハツカネズミをよく観察するきっかけとなりました。また、ふれあい終了は子供たちにとってさみしいものですが、休憩場所へ帰る姿を見守ることで、動物たちの休憩や掃除の時間を理解し、時間になると外へスムーズに出るという効果ももたらしました。



### ●ハツカネズミの綱渡り



しっぽの長い動物はしっぽでバランスが取れ、高いところが得意とされています。しかし、ハツカネズミには訓練が必要でした。まずは広場に立っているポールとポールの間にロープを張り、低く短い距離で訓練を始めました。すべてのハツカネズミに教えるのは大変なので、10匹程度の代表を作り教え込みました。それが他のハツカネズミも引き継がれ、現在のような綱渡りを観察できるようになっていったのです。

しっぽの長い動物はしっぽでバランスが取れ、高いところが得意とされています。しかし、ハツカネズミには訓練が必要でした。まずは広場に立っているポールとポールの間にロープを張り、低く短い距離で訓練を始めました。すべてのハツカネズミに教えるのは大変なので、10匹程度の代表を作り教え込みました。それが他のハツカネズミも引き継がれ、現在のような綱渡りを観察できるようになっていったのです。

### ●綱渡りの維持

綱渡りに必要な練習や筋力維持にはハツカネズミの休憩場所の「ねずみワールド」が役にたっています。「ねずみワールド」にはエサや水の他にスタッフ手作りの遊具や休憩場所が置いてあるからです。また、ふれあい開始前のハツカネズミを初めに出す場所であり、外に出ることを覚え、綱渡りに向けた体力をつけることができ、先輩ネズミのまねをして上り方などを習得しています。また、季節や行事に合わせて「ねずみワールド」の内容を変化させているため、リピーターも楽しめます。ハツカネズミに飽きられないこともメリットの一つです。



また、綱渡りの維持にはロープのメンテナンスが必要です。綱渡り開始当初のロープは細いロープをみつあみにしたものや、はしご状のものがつかわれていましたが、制作・消毒・日々のメンテナンスが大変でした。現在は、織が細かく、耐光性・耐水性のあるロープを行き違いができるように2本を平行に張っています。初期コストがこれまでの物よりかかりますが、メンテナンスが楽になりました。

### ●まとめ

ハツカネズミの展示の工夫を通し、今ある物を当たり前とせず、様々な視点を持ち、工夫を続けて必要な変化させることも展示の維持につながるようになりました。また、スタッフの負担の軽減となるよう工夫をすることも長く継続するために必要でした。今後も魅力ある展示を維持できるよう動物を観察し、利用者の声も聴きながら工夫をしていきたいと考えています。

